2022 年　イタリア・ヴェネツィアでの国際美術展

「PERSONAL STRUCTURES 2022」参加計画書

■ この国際美術展がヴェネツィアビエンナーレと同時期に開催されるということに大変意義があります。ヨーロッパのアート関係者、コレクター、美術館、ギャラリーへの大きなアピールとなり、ヨーロッパへ改めて展開していくのに大きな足掛かりとなるでしょう。

■ ヴェネツィアビエンナーレとは？
ヴェネツィアビエンナーレはイタリアの島都市ヴェネツィアで 1895 年から開催されている長い歴史を持つ最も権威のある国際美術展です。ビエンナーレとは「2 年に 1 度」意味するイタリア語で、現在、世界、日本各地で開催されているビエンナーレやトリエンナーレ（3 年に 1 度）はこのヴェネツィアビエンナーレを模範にしているとされています。イタリア政府が後援する NPO のヴェネツィアビエンナーレ財団が主催し、2 年に 1 度、奇数年に 6 月から 11 月まで開催されている。今年、2021 年に開催予定だった第 59 回ヴェネツィアビエンナーレは新型コロナウィルスの世界的流行の影響から 2022 年に延期されました。

■ PERSONAL STRUCTURES 2022 とは？
毎回ヴェネツィアビエンナーレと同時期にヴェネツィアではさまざまな展覧会やイベントが開催されます。まるで街中がアートの祭典の会場であるかのようにアート一色となります。そんな展覧会の一つが PERSONAL STRUCTURES 2022 です。元々はヴェネツィアビエンナーレ財団が運営していましたが、展覧会規模の拡大に伴い独立し、現在は NPO の国際文化機関 European Cultural Centre (ECC)が展覧会を運営しています。ECC の活動理念は社会の深刻な問題に関心を寄せ合い、より良い社会にするため、お互いの文化的共通点や独自性を大切にし、違いの中に存在する共通する資質に理解を深めてもらうことです。

■ 展覧会期間：2022 年 4 月 23 日～2022 年 11 月 27 日
■ 会場：ヴェネツィアのパラッツォ・モーラ、パラッツォ・ベンボー、マリーナレサ・ガーデンズ
■ 参加者：世界各国のアーティスト、写真家、大学、美術館、ギャラリー
■ 展覧会テーマ：「Personal Structures」と題された今回の展覧会では、時間、空間、存在という 3 つのテーマの哲学的概念を議論することにより根本的な疑問に焦点を当てながら、アートの世界における現代の時事と思考を記録する。
■ 参加費用：A)共同展示：16,000 ユーロ（2,119,176 円）B)単独展示：1 平方メートルあたり 1,700 ユーロ、個別の部屋で展示となると約 300 万円からとなる
■ 費用に含まれるもの：プレビューイベント、オープニングレセプション、7 ヶ月の展示経費、設営と撤去の費用、メンテナンス、照明、展示機材、カタログなど
■ 費用に含まれないもの：参加者の航空券などの交通費、宿泊費、作品の制作費及び輸送費

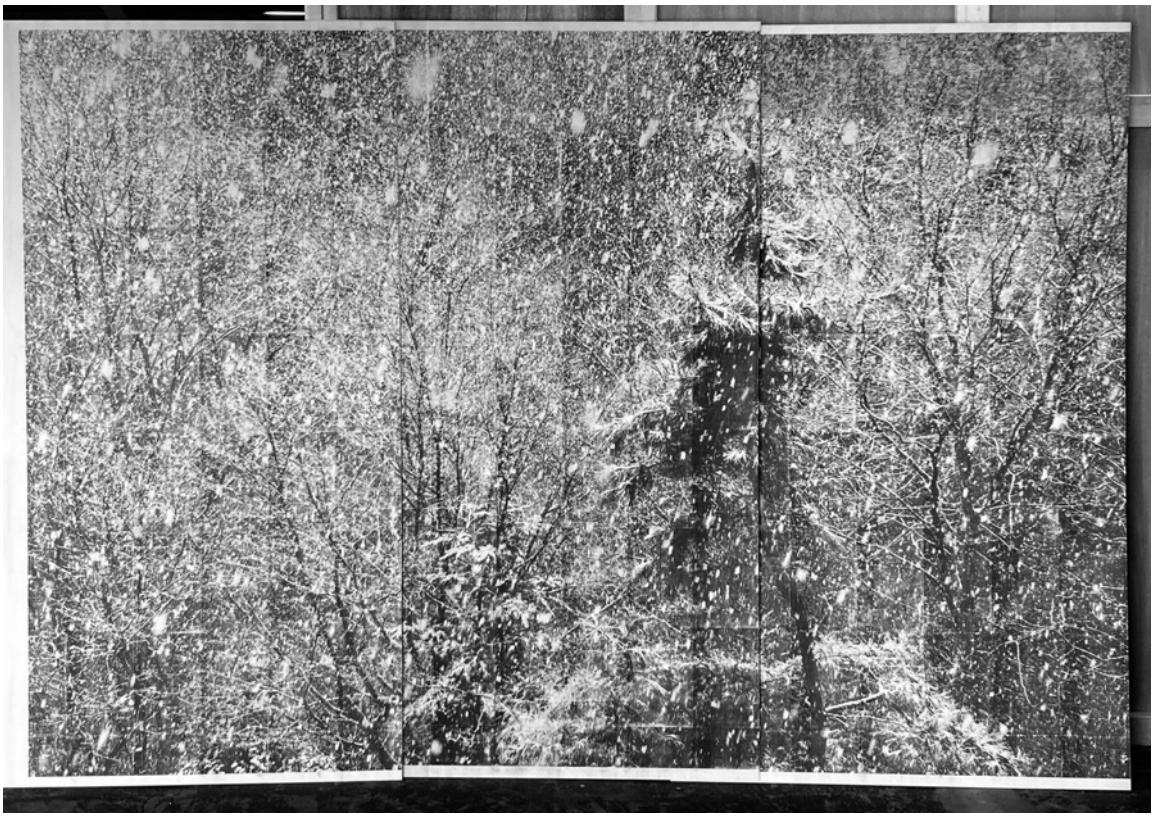
■必要経費
展示参加費（個室）300 万円
作品の制作費　30 万円
作品の輸送費　10 万円
往復の航空券（東京〜ベネツィア）20 万円
ベネツィアでの宿泊費（オープニングレセプション参加のため３日間滞在）10 万円
合計　370 万円

■なぜこんなにも参加費が高額なのか？
PERSONAL STRUCTURES 2022 では展覧会への入場料と取らず、誰でも無料で入場できるようにしているため。展覧会にかかる経費は参加者が支払う参加費から賄っている。しかし、参加者の多くは国際交流基金などの政府機関からの助成金、企業やパトロン、スポンサーからの援助金を得て参加費に充てている。

■どのようにして費用をまかなうのか？
文化庁の「優れた現代美術の国際発信事業」の補助金（上限３００万円）、公益財団法人野村財団（上限無し）や吉野石膏美術振興財団（上限１００万円）の助成金に応募する。また、企業や個人からの支援も募る。

■湯浅が展示予定している作品、展示コンセプト
現在、私たちを取り巻く地球環境の変化が大きく取り上げられています。気候変動、温暖化、砂漠化、森林破壊、海洋汚染、大気汚染など様々な問題が毎日確実に進行しています。その主な原因は私たち人間が引き起こしたものです。２０世紀に起こった産業革命以降、人間の生活は豊かになったと同時に地球環境は悪化していきました。私は常日頃から環境問題に対して危機意識を高くもって生活しているわけではありません。しかし、昨今の変化は意識しなくとも感じられるほどの大きなものとなっています。私が木版画制作の元にする写真として「自然」を多用します。しかしそれは所謂「大自然」ではなく、私たちの生活の中にある「自然」です。特に都市生活における人間と自然の関係性にとても関心があります。私が取り組んでいる木版画は産業革命以前からある芸術表現です。日本では浮世絵版画に代表される伝統芸術でもあります。木版画に使われる材料や道具は主に自然の植物を元にしていて、絵の具も水で洗い流すことのできるとても環境への負荷が低い技法なのです。私たちアーティスト自身もどのような素材や道具を使い、作品を制作するのかということを意識的に考える時代となってきました。表現したいというエゴと環境問題を考えるエコロジーをいかに結びつけて考えるかが大切だと思います。今回の展覧会では作品だけでなく、制作する様子や、木版画に使う道具や材料の現場を取材し、その映像を会場で流したいと考えています。作品だけでなく、木版画というものが日本の芸術表現であるのと同時に、地球環境を考える上でサイクルを回す一つのピースになることを示したいと思います。

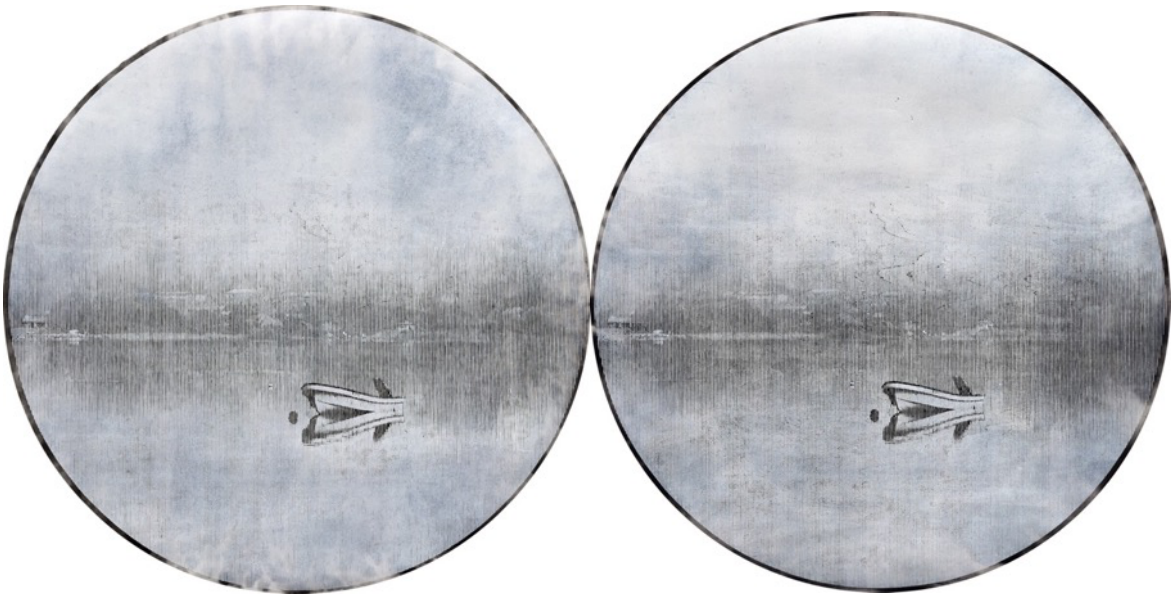
■List of works for Personal Structures 2022



Summer snow （未完成、現在制作中） 2021
200cm x 300cm
Oil-based woodcut print on paper

Heat Island
2020
71cm x 101cm
Water-based woodcut on paper

Tokyo 2100
2020
52cm x 36cm
Water-based woodcut on paper



Silence #1, #7
2020
77cm in diameter
Oil-based woodcut print on paper

Making own paper, printing by hand and seeing through the light
2021
62cm x 85cm
Water-based woodcut on hand-made paper